

■ 研究発表論文

「米欧回覧実記」における「都市公園」に関する用語の用いられ方

Method of Using Words which concern the Urban Park in "Bei-O Kairan Jikki"

佐々木邦博*

Kunihiro SASAKI

邦文摘要・本研究の目的は、明治4年から6年にかけて明治新政府により欧米諸国へ派遣された岩倉使節団の公式報告書である「特命全権大使米欧回覧実記」の中で、都市公園に関して用いられている多くの用語の使われ方の相違を明らかにすることにある。そのために「実記」中にあるそれらの用語の使用箇所をすべてピックアップし、分析した。都市公園をあらわす用語は公園の形態・施設により使い分けが見られる場合もあるが、一方でひとつの公園の表現に特定の用語があてられたわけではない。実見者にとって、実見しているがゆえに、多様な用語の使用が見られ、「公園」の概念の理解についてはまだ流動的な状況にあったといえよう。

1. 研究の目的

幕末から明治初期にかけて、欧米諸国に外交使節団が何度か派遣される。使節団のほとんどの人々は西洋の文物に初めて触れることになるのだが、その中で公式な報告として、あるいは私的な日記として、渡航の様子が書き残されている。この時に問題となるのが言葉の表現である。生まれて初めて見たり聞いたり、あるいは味わったりしたものを、どのように日本語で表現したらよいか、さぞかし考えあぐねたに違いない。

都市公園に関してもその中に含まれる。欧米諸国では19世紀に入ると都市内及び周辺に公園が整備され始めるが、特に幕末から明治初期に当たる19世紀中葉になるとその動きが活発になる。渡航した人々は、その中で、近年整備された、あるいは整備されていく公園を眺めた。そしてその時日本にはなかったその空間をどのように表現したらよいか、熟考したはずなのである。

そこで本研究の目的だが、欧米に派遣された使節団の中で、重要であり、規模が大きく、しかも派遣が長期間にわたった岩倉具視を代表とする使節団の公式報告書である「特命全権大使米欧回覧実記」（以下「実記」と表記する）を取り上げ、その中で都市公園がいかなる用語で表現されているか、そこで使用されている用語の用いられ方の相違を明らかにすることにある。この報告書は都市公園に関する記述の豊富さでも知られている。

岩倉使節団は1871年（明治4年）にアメリカ合衆国と欧米諸国を視察するために出発し、翌々年帰国している。1年9カ月の視察であった。日本ではこの間に明治6年太政官布告第16号が公布されている。公園を造りなさいという布告であり、公園という制度を作った布告である。この中では「公園」という用語が用いられていた。「実記」はまさにこの時に欧米諸国で実際に公園を見て記された公式報告書なのである。よって「実記」の中の公園に関する用語の使用を明らかにすることは、公園を設立しようとしていたこの時期の人々の公園の捉え方を把握することでもある。特に「実記」が推敲に推敲を重ねて成立したことを考えるなら、なおさら重要である。さらにこの「実記」は発刊時の明治11年からすでに重要視され、最後には発売されるほど当時の人々に関心を持たれ、後世に影響を与えた著作であり、この本の意義が高く評価されていることを考えるなら、この点を明らかにすることは重要な意義を持つと考えられる。

今まで都市公園の分野で「実記」に言及している書物や論文に

は針ヶ谷鐘吉氏による『「庭園」という名の起源』¹⁾、「開化期の海外都市公園論」²⁾、「幕末・開化期のセントラルパーク」³⁾、「開化期海外渡航者の西洋庭園観」⁴⁾という論考がある。木村三郎氏も同時期に「文明開化の中の日本の公園（苑）観」⁵⁾、「東京市区改正と街路樹問題」⁶⁾、「造園事情の日米欧交流の歴史的系譜と評価」⁷⁾の論文を記している。また白幡洋三郎氏は「近代化の中の公園」⁸⁾の論文において、柳五郎氏は「公園設置の近代化」⁹⁾の論文において、俵浩三氏は「緑の文化史」¹⁰⁾の中でこの「実記」を取り上げている。またパリ市については「明治初期の岩倉使節団に見るパリの都市公園の捉え方」¹¹⁾として論じている。

これらの中で「実記」の用語に着目しているものとしては、まず針ヶ谷鐘吉氏による『「庭園」という名の起源』がある。「公園」という用語に着目しているのだが、「実記」において「公園」と記しているのを賞賛している一方で、針ヶ谷氏はその他の多彩な表現に留意している。木村三郎氏は「文明開化の中の日本の公園（苑）観」の中で『「苑」とは広々とした風景苑を、『園』とは市街地の一角の小園と概念していることが伺える』と分析している。白幡洋三郎氏は「近代化の中の公園」の中で「全体として『公園』を多用しているものの、『広園』『公園』『遊苑』『庭園』『庭苑』など多くの語を用い、規模と内部の施設に対応している」としているが、それらの対応関係は全く説明されておらず、仮説にとどまっている。このように、「実記」に記されている様々な用語の用いられ方をトータルに検討した研究は、その重要さが認識されながらも、未だない。以上が現在までの研究の概略である。

2. 研究の対象である「実記」

研究の対象は「実記」である。その中の欧米諸国に関する報告を分析の対象とする。すなわち、サンフランシスコ港に着いてからフランスのマルセイユ港を出港するまでの部分すべてである。

ところで「実記」には草稿が残されている。それらは表紙の色から「青表紙本」¹²⁾、「白表紙本」¹³⁾、「黄表紙本」¹⁴⁾と呼ばれているが、その他にも印刷前の草稿と見られる原稿が残されている。これらは一部が残されているのだが、それぞれに朱入れによる加筆や推敲が数多く見られることが特徴である。

なお「実記」は1975年に宗高書房より原文通り復刻されているほか¹⁵⁾、1977年より岩波文庫としても刊行されている¹⁶⁾。この論文中の引用は宗高書房の復刻版を用いる。

*信州大学農学部森林科学科

3. 都市公園に関する用語

岩倉使節団による欧米諸国訪問は1年9カ月に及び、多くの都市をまわり、滞在している。「実記」には西洋の公園論とともに都市公園を訪れたことが多くの場所で記されている。その中では、都市公園を説明しようとするために、多くの表現がなされている。このように、記されている公園の数も多いし、多くの用語が用いられているために、一読しただけではそれぞれの用語の用いられ方の特性がわからない。「公苑」という単語が一番よく用いられていることに気づくだけである。

そこで本研究ではまず都市公園を一般的に指し示している表現のみを取り上げ、用語の用いられ方の相違を分析していく。そして次に個々の公園を指している用語を取り上げ、検討をさらに進めていくことにする。

取り扱う都市公園だが、この論文では都市の内部や周囲にある公園を主な対象とする。なお都市内にある庭園で、公園のように一般に開放されている場合は、それを含めて検討の対象とする。

(1) 都市公園に関する一般的な用語

都市公園を一般的に指し示している用語を集めてみた。つまり都市公園一般を指していたり、ある都市の都市公園を総体的に指している場合のほか、例えば「... という公苑」といった記述においても「公苑」という言葉はある特定の公園を指しているわけではないので、含めることにした。

「実記」の中でこのように使われている用語は数多くあった。出てきた順に並べると、「公苑」「スクワヤ」「遊園」「公園」「パーク」「小苑」「苑圃」「遊樂園」「遊苑」「廣苑」「遊園」「廣域」「大公園」「大苑」「遊衍場」「遊地」「遊苑」「名苑」「遊樂地」である。(なお「苑」と「遊」の字に関しては旧字体と新字体が入り交じって使用されているので、本論文中では引用文を除いて新字体で表す。)

他と比べて際だって多く用いられているのは「公苑」という用語であった。例えば最初の訪問都市サンフランシスコの記述の中で西洋と東洋を比較しながら公園論を語っているのだが¹⁷⁾、その中ではこの「公苑」が使われている。いろいろな箇所でも数多く使われていることから、「実記」の中で「公苑」こそが最も一般的に都市公園を指し示している用語だと判断できる。

この「公苑」に対し、現在一般的に使われている「公園」の使用例は少なく、2ヶ所だけである。以下に文章を示す。

歐米公園中ニモ、比類少ナシト云、(I-266)

市街蕭索トシテ、公園ニ彷徨スルモノ、多クハ賤民黑人ノミ、(I-313)

(注、カッコの中のローマ数字は「実記」5冊中の何冊めかを示し、算用数字はページを指している。以下同じ。) 最初の引用文はニューヨークのセントラルパークの内容を説明している文中にあり、欧米諸国の「公園」という広い地域での一般的な有様を述べている。次の引用文は第17巻の冒頭で、しかも国会終了後の首都ワシントンという大きな話題の中で用いられている。2例しかないのではっきりとは言えないが、大きな話を取り扱うときに「公園」という用語を用いる傾向があるのではないかと考えられる。

またベルリンのティーアガルテンにおいて「大公園」という用語が使われているが、この一例しか使用された例はなく、その理由は残念ながらわからない。

次に「苑圃」という用語を見てみよう。

此部ハ街路規正ニテ廣濶ナリ、中ニ苑圃ヲ修メ、清楚ノ區多シ、(II-45,46)

其他「ブァーテ、ダ、ハスチール「シヤテール」ナト、皆美ヲ盡シ潔ヲ極メタル苑圃ナリ、(III-35)

外景ハ甚タ美ナラス、苑圃ノ設ケモナシ、(III-353)

市街上ヲ懸架シ、苑圃ノ中ヲ横過スレトモ、會テ其然ルヲ覺ヘス (IV-306,307)

4箇所が使われているが、最初の引用文はロンドン西部のウィンチェスター地区の説明である。グリッド上の街路に公園がある様子を説明していると考えられる。二番目はパリの説明の中にあり、バ스티ューユ広場とシャトレ広場の説明である。この場合の苑圃は明らかに広場を指している。三番目はベルリンの王宮の説明だが、「苑圃ノ設ケモナシ」と否定形をとっているの、指している姿は具体的ではない。四番目はフィレンツェの説明中にあり、ウフィツィ館とピッティ宮殿を結んでいた階上の通路の話だが、やはりこの場合も「苑圃」が指している具体的な姿は明らかではない。最初の二つの引用から「苑圃」とは建物に囲まれている区域の公園や広場を指す傾向があるのではないかと考えられる。

また、「遊」や「游」の字を持つ用語が多い。「遊園」「遊樂園」「遊苑」「遊園」「遊衍場」「遊地」「遊苑」「遊樂地」と、多い。これらの用語は当然ながら文字どおりの意味を持っていると考えられ、人々が楽しそうに利用しているイメージがこの字から伝わってくる。引用をいくつか行くと、

王宮ノ背後ニハ、「バイドパーク」ト云公苑ヲ修メ、府中最美ノ遊樂園ナリ、(II-46)

北方ニハ「レーゼントパーク」ト云公苑アリ、府中最廣ノ遊苑ニテ、林樹鬱茂シ、(II-47)

これらの場合は明らかに公園の説明としてこれらの用語が使われている。また、次のような文もある。

全府ノ民ヲ、一ノ遊苑中ニオク、巴黎ノ市中、往ク所ニナ息ノ勝地アリ、(III-35)

巴黎ノ日曜日ニハ、諸遊苑ニナ車馬喧鬧シ、男女群ヲナシ、鼓吹舞踏スルアリ、喫茶飲酒スルアリ、(III-37)

これらの場合も公園の利用、様子を表す用語として用いられている。他の場合も同様である。

次に「苑」と「園」との違いを見ていく。「園」が着く用語の文章を以下に引用してみる。

劇場、遊園、花園ノ如キハ、録スヘキモノ少ナシ、(I-196)

王宮ノ背後ニハ、「バイドパーク」ト云公苑ヲ修メ、府中最美ノ遊樂園ナリ、(II-46)

大都府ノ遊園タルニ耻ス、(II-215)

巴黎ノ遊園中ニテ、眺望ノ濶ニシテ、山水ノ奇、雅韻アルハ、此苑以テ第一トスヘシ、(III-70)

所所ニ遊地ヲ存シテ、散歩ノ園ヲ修ム、地氣寒冷ナルヲ以テ、草木繁茂セス、遊園ノ設ケ、光景索然ナリ、(IV-38)

又處處ニ餘地ヲ存シ、遊園ヲ修メ細草ヲウエ、緑樹陰ヲナシ、跳水池「スタチュー」等ヲ据エ、府中ノ氣ヲ清浄ニシ、風致多シ、(IV-434)

やはり、賛美したり、あるいはその逆に否定するなど、公園をよりよく、大きく捉える場合が多い傾向があることがうかがえる。

また「小苑」「大苑」「廣苑」は字が示すような形態を表している用語であり、「名苑」は名高い苑である。また「パーク」「スクワヤ」のようにそのままローマ字で表している場合もあるし、ルビをふって表している場合もある。いずれもその場所を最もよく表そうとした結果であろう。

最後に、文字の本来の意味から考察を加える。久米は漢学者であり、字義に精通していたはずだからである。漢字の字源を記した白川静著「字統」によると、「苑」は樹木のあるところを指している。また字の中の「艹」にはなだらかなものの意がある。次に「園」だが、果樹草木のあるところを指し、字の中の「口」は一定の区画された土地を指している。また「圃」だが、垣のある苑を指すとともに、禽獣がいる場合にも使うとされている。さて「遊」だが、「游」とも書くことされている。どちらも外に旅すると

いう意味で、大きな違いはないようだが、「遊」はさんずい、「遊」はしんにょうであり、前者は水に関係し、後者は路に関係していると言える。これらのことから今一度用語を見ていくなら、やはり「苑園」には囲まれている意味が持たせられている。また「苑」と「園」の違いや「遊」と「游」の違いは、残念ながら一般的な用語に関してははわかりにくい。

(2) 各々の公園で使われている用語

次に各々の公園がどう表現されているのか、その用語をまとめたのが表-1である。「実記」中には詳しく説明されている公園ばかりでなく、公園の前を通るなどして名前だけが掲載されていたり、挿絵だけがある場合があるが、それも含めている。また現

在の公園名がわからないときには「」を用いて「実記」中の言葉で示している。場所は特定されているのだが、名前が記されていない場合もこの表に含めており、場所に「？」と表記している。また集めた表現だが、都市公園一般の表現と重なるが、「... という公苑」というものも、用語は一般的に使われていても表現全体が特定の公園を指しているの、この表に含めている。まとめた結果、42公園が上げられた。詳しく説明されている公園はその公園を指した表現が多く、説明が少ない場合は当然ながら逆である。この表からまず最初にわかることは、都市公園一般を示した用語と同様に、いろいろな用語が使われていることである。しかも公園名さえ一定していない。例えばニューヨークのセントラ

表-1 各々の公園で使われている用語

都市	公園名、あるいは場所	表 現
1 サンフランシスコ	「ウートワルト」	パーク 「ウードワルト」公苑、此苑、「ウートワルト」ノ苑、「ウードワルト公苑」 「ウードワルト」公苑
2 ワシントン	ホワイトハウスの前後の場所	「レファエッチ、スクワヤ」、「スクワヤ」、遊苑
3 ワシントン	ホワイトハウスの東に隣接した場所	「スクワヤ」公苑、
4 ワシントン	ホワイトハウスの西に隣接した場所	廣苑
5 ニューヨーク	バッテリー公園	遊園
6 ニューヨーク	セントラルパーク	「セントララーパーク」、此遊園、此園、公園、「セントララーパーク」、公苑 苑後、「セントラル公苑、園外、「セントラル苑、「セントララーパーク」 「パーク」、「セントラルパーク」 ワシントン
7 ニューヨーク	ワシントンスクウェア	「華盛頓スクワヤ」
8 サラトガ	?	公苑
9 ホストン	「河北ナル遊苑」	遊苑、苑
10 ホストン	コモン	公苑、「コンモン、パーク」、「コンモン苑、苑、遊苑
11 フィラデルフィア	フェアモントパーク	「フェアモント」苑、「フェールモント公苑、「フェアモント、パーク」 「フェアモント、パーク」、公苑、此苑、「フェアモント苑、苑中
12 ロンドン	セントジェームズパーク	「セントジェームス苑、林苑、「セント、ジェームス苑
13 ロンドン	ハイドパーク	「バイドパーク」、公苑、苑内、環苑、「ハイドパーク」 「ハイドパーク」、彼苑、「バイドパーク」
14 ロンドン	リーゼントパーク	「レーゼントパーク」、公苑
15 マンチェスター	?	「ガーデン」、「ガーデン」花圃、「パーク」
16 グラスゴー	ウエストパーク 「西公苑」	ウエストパーク 西公苑、此公園、園、園内、園前
17 エジンバラ	?	廣苑
18 バリ	シャンゼリゼ庭園	此苑中
19 バリ	コンコルド広場	「コンゴルト苑、「コンゴルト苑、「コンゴルト」ノ苑、此苑 「コンゴルト苑、「ブラス、ト、コンゴルト」、「コンゴルト苑
20 バリ	テュイルリー庭園	廣苑、同宮苑、「チュロリ宮ノ苑
21 バリ	パレロワイヤル庭園	方庭、大宮苑、方庭、庭、ローヤル宮苑
22 バリ	リュクサンブル庭園	大苑、「リュクサンブル」ノ宮苑、同宮苑、此宮ノ苑、大苑
23 バリ	ブーローニュの森	「ポアーデ、ブロン苑、「ポアーデ、ブロン」、名苑、廣苑、苑後 「バーテブロン苑、「バーテブロン苑、「ポアデブロン」ノ苑、此苑 此苑、ポアデブロン公苑、「バーテブロン」
24 バリ	ピュットショモン公園	「ピットショーモン苑、「ピットショーモンパーク」、ピットショーモン公苑 「ピットショーモン」ノ公苑、此苑、此公苑、此「ピットショーモン」、此苑 「ピットショーモン苑、此苑、此苑、此「ピットショーモン苑
25 バリ	?	此「ピットショーモン苑、「ピットジョーモン苑 遊苑
26 ブリュッセル	ブリュッセル公園	廣苑、園内、苑中、此苑
27 ハーグ	ハーグ森林公園	同海牙森、樹苑、「ハーヘ」ノ森、此苑中、此森、「ハーヘ」ノ森
28 ベルリン	ティアアガルテン	「チエル」ノ大公園、其園、「チエル」ノ公苑、大苑、「チエル園、「チエル公苑
29 ベテルブルグ	「子ワ南岸」	遊園
30 ハンブルグ	「アルステル湖岸」	園
31 ハンブルグ	「バンクオフエルフ」	遊苑、遊苑、「バンク、オフ、エルフ」ノ苑、遊苑、遊苑
32 ミュンヘン	ホーフガルテン	大苑
33 ミュンヘン	イギリス庭園	公苑、「インギリス、ガーデン」、苑外
34 フィレンツェ	?	花園
35 ナポリ	市立公園	長苑
36 ローマ	ピンチョ	「モンヴェスシオ苑、「モンヴェスシウォ苑、此苑
37 ローマ	ボルゲーゼ公園	「パーク」、大苑
38 ヴェネチア	?	公苑、此苑
39 ウィーン	帝宮前の公園	廣苑
40 ウィーン	ブラター	「プラーテル」苑、「プラーテル苑、同苑、「プラーテル借樂苑、「プラーテル苑
41 ジュネーヴ	レマン湖岸	遊苑
42 マルセイユ	?	廣苑

ルパークは「セントラルパーク」と呼ばれたり、「セントラル公園」あるいは「セントラルパーク」「セントラル苑」と呼ばれたりしている。

使われている用語を公園ごとに見ていくなら、一つの利用だけが使われている場合と、複数の用語が用いられている場合があることがわかる。セントラルパークを例に上げるなら、「遊園」「園」「公園」「公苑」「苑」という用語が用いられている。ハイパークなどの大きな公園でも、用いられている用語の種類は違いますが、同様である。同一の公園に複数の用語が用いられていることは、公園の大きさや形や機能により用語が使い分けられているだけではないことを示している。

次に表全体を見るなら、やはり「公苑」が一番よく用いられている。「ワードワルト」やビュットショモン公園などでは「公苑」とその簡略化した表現と考えられる「苑」だけが使われている。最も一般的な表現と見なすことができる。

「公園」という用語はセントラルパークと「西公苑」においてしか用いられていない。セントラルパークでは入り口付近の建設中の場所の説明中に、公園にするという一般的な使い方用いられている¹⁸⁾。「西公苑」ではその固有名詞を除けば、「公園」とその簡略化した表現だろう「園」しか使われていない。この一ヶ所ではしか用いられていない理由は不明だが、イギリスで一番美しい公園と評されていることに関係しているかもしれない¹⁹⁾。

いろいろな用語が使われているセントラルパークだが、固有名詞以外では長い説明の最初に「遊園」「園」「公園」が用いられ、末尾で「公苑」が使われている。そして全体を振り返ったようなときに「園外」が使われている²⁰⁾。明らかに使い分けられ、規則性があると推定できる。すなわち「実記」で説明する最初の大きな公園であり、説明前後の改まったときに「園」が使われたのではないかと考えられる。また「遊」や「游」のつく用語だが、表を見るなら、用語が用いられた回数が少ない場合が多い。公園の説明が少ないのである。またホワイトハウスに隣接した公園とボストンコモンでは最後に用いられているが、それは日を改めて訪れているときの表現である。ゆえにこのタイプの用語は、短い説

明においてその場のイメージを伝えるために用いられているのではないかと考えられる。ただハンブルクの「バンクオフェルフ」の場合にだけは繰り返し用いられているが、理由は不明である。

また「廣苑」「大苑」「名苑」が使われているが、これらは文字どおりの意味で、それにふさわしい公園において使われている。

今度は文字本来の意味から見ていくと、セントラルパークの場合は全体が囲まれていることが見える最初と最後に「園」が使われている。グラスゴーのウェストパークの場合は不明だが、ティアガルテンの場合も同様である。「遊」と「游」の違いは残念ながらわからない。漢字の部首の違いによるニュアンスの違いが、表現するときにあられたのではないかと推測される。

4. 結論

「実記」中の用語を調べた結果、以下のことが判明した。都市公園において一番多く使われている用語である「公苑」は最も一般的な表現といえる。それに対して「公園」は、用例が少ないのだが、大きくかまえるとき、いわば気負った表現として、あるいは囲まれている公園全体を捉えるときに使用されている傾向がうかがえる。また「苑園」という用語があるが、建物に囲まれた広場や公園を指しており、囲まれていることに重点をおいて捉えられている傾向がある。次に「遊」や「游」の字を持つ用語だが、文字どおり人々が楽しそうに利用しているイメージを持った用語であり、ゆえに公園の短い説明においてもよく使われている。ただし漢字の部首の違いによりニュアンスに差があるのではないかと推測される。「廣苑」「大苑」「小苑」「名苑」の用語もまさに公園の特徴を文字どおり表す表現として用いられている。

このように、「実記」における都市公園を指し示した用語は公園の形態・施設により使い分けが見られる場合もあるが、一方でひとつの公園の表現に特定の用語があてられたわけではない。実見者にとって、実見しているがゆえに、多様な用語の使用が見られ、「公園」の概念の理解についてはまだ流動的な状況にあったといえよう。

引用文献

- | | | |
|---|--|--|
| 1) 針ヶ谷鐘吉 (1981) : 「庭園」という語の起源 : 庭 (56), 37 - 39 | 8) 白幡洋三郎 (1982) : 近代化の中の「公園」 : 人文學報 (53), 213-245 9) 柳五郎 (1982) : 公園設置の近代化 : 造園雑誌 46 (2), 87 - 101 | 15) 久米邦武 (1878) (1975 復刻) : 「特命全権大使米欧回覧実記」 : 宗高書房 なお引用文のページ数は宗高書房の復刻版による |
| 2) 針ヶ谷鐘吉 (1981) : 開化期の海外都市公園論 : 庭 (60), 29 - 32 | 10) 俵浩三 (1991) : 緑の文化史 : 北海道大学図書刊行会, 128 - 129 | 16) 久米邦武 (1878) (1977-82 復刻) : 「特命全権大使米欧回覧実記」 : 岩波書店 |
| 3) 針ヶ谷鐘吉 (1982) : 幕末・開化期のセントラルパーク : 庭 (62), 51 - 56 | 11) 佐々木邦博 (1995) : 明治初期の岩倉使節団に見るパリの都市公園の捉え方 : ランドスケープ研究 58 (5), 49-52 | 17) 久米邦武 (1878) : 同上書 : vol.1, 50 - 52 |
| 4) 針ヶ谷鐘吉 (1987) : 開化期海外渡航者の西洋庭園観 : 庭 (別冊 57), 130 - 134 | 12) 久米邦武 (?) : 米欧回覧日記, 久米美術館蔵 | 18) 久米邦武 (1878) : 同上書 . vol.1, 266 |
| 5) 木村三郎 (1981) : 文明開化の中の日本の公園 (苑) 観 : 都市公園 (74), 2 - 9 | 13) 久米邦武 (?) : 米欧回覧日記, 久米美術館蔵 | 19) 久米邦武 (1878) : 同上書 : vol.2, 214 - 215 |
| 6) 木村三郎 (1984) : 東京市区改正設計と街路樹問題 : 都市公園 (86), 2 - 8 | 14) 久米邦武 (?) : 米欧回覧日記, 久米美術館蔵, また, 京都府立総合資料館にも完本が残されている。 | 20) 久米邦武 (1878) 同上書 : vol.1, 265 - 269 |
| 7) 木村三郎 (1987) : 造園事情の日米欧交流の歴史的経過と評価 : 造園雑誌 | | |

Summary : This study aims to reveal the method of using words concerning the urban parks in “Bei-O Kairan Jikki”. This report was written in early Meiji era when there was no technical words concerning urban parks in Japanese. I have picked up all words from “Bei-O Kairan Jikki” and analyzed them by classifying into two categories: one indicated general urban parks and the other indicated the specific urban parks. By analyzing them, it became clear that these words did not only define form and facilities of the urban parks but also they described the contents and circumstances of urban parks that the author observed.